

# やけど



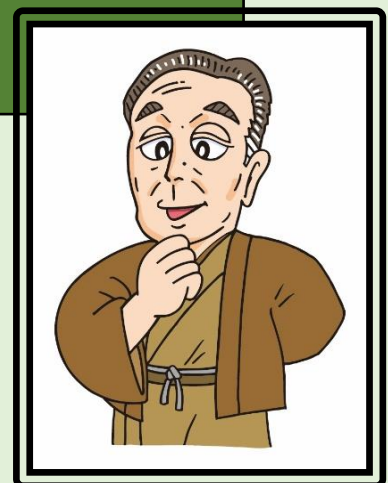
ポットのお湯やスープ、アイロンなど、やけどの原因となるものは、身のまわりに多くあります。小さいこどもは危険の判断が難しいことから注意が必要です。

やけどの重症度は、やけどの深さと広さで決まります。小さいこどもや高齢者は、比較的小さなやけどでも命に関わることがあります。

## ★予防のポイント★

### 【 やけどの予防 】

- ポットなど高温の液体が入ったものは、こどもの手の届かないところに置く！
- ストーブなど暖房器具の周りには柵を置き、こどもを近づけさせない！
- 花火をするときはこどもから目を離さない！
- 火の取扱いに注意する！



中津市消防本部

## やけどの応急手当

やけどはすぐに冷やすことが大切です。

### 【ポイント】

- 水道水など清潔な流水で冷やしましょう
- 10分以上よく冷やしましょう
- 水ぶくれが破れないように気をつけましょう

### 【注意点】

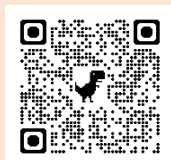
- 氷や氷水はかえってやけどが悪化することがあるので避けましょう
- やけどの範囲が広い場合は、体全体が冷えてしまう可能性があるため、冷やしすぎないようにしましょう

### 【こんなときは119番】

- やけどの範囲が広く、大きな水ぶくれになったとき
- 水ぶくれにならずに皮膚が真っ白になったとき
- 皮膚が黒く焦げたとき
- 顔面や陰部をやけどしたとき

予防救急を始めましょう！！

その他の予防救急はこちら→→→



心肺蘇生ガイドラインはこちらから→

